

第四回 塩津能の會 九州公演

平成29年11月4日(土)午後1時30分開演

(12時30分開場)

大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155

<http://www.ohori-nougaku.jp>

【鑑賞券】

正面(指定席)/7,000円
 脇正面(指定席)/5,000円
 中正面(指定席)/4,000円
 正面(自由席)/6,000円
 脇正面(自由席)/4,000円
 中正面(自由席)/3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局

TEL/FAX:03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

<http://kita-noh.com/ticket>

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト
<http://www.shiotsu-noh.com>

詳しくはこちらへ→



主催:一般社団法人 塩津能の會

【会場案内】



■西鉄バス 黒門バス停…下車徒歩3分 大濠公園バス停…下車徒歩3分
 ■地下鉄 大濠公園または唐人町…下車徒歩7分

能とは?

能とは舞(動き)と謡(歌・セリフ)による舞台演劇です。しかし、現代の演劇の大半がドキュメンタリー、つまり時間を圧縮した物語であるのに対し、能は逆下キョメントリー、衝撃的な一瞬の出来事を引き延ばしたものです。一瞬とは人の出会い、別れ、生死などをいい、これらの背景にあるさまざまな物語を、観る人それぞれが心の中に描きます。これによって能は百人が観れば百通りの見方ができる舞台芸術です。つまり隣の人の感想が違うことが常で、そこが難解と言われるところなのです。しかしこれこそが能の持つ魅力です。

九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって由縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受けたことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先達、梅津只園が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只園翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を灯すために、熊本ゆかりの能楽師塩津哲生・圭介が「塩津能の會」九州公演第四回目を催します。日本が世界に誇る伝統芸術、能楽の精華を文化豊かに薫る福岡の地に、そして広く九州の地へとあらたに拡げることを目指して活動に取り組んでまいります。

文化継承!

和風建築が減少し、畳の部屋がないという住まいも多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはとても不安を感じます。昨今文化発信向上の声はありながら、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力の後世に伝えようと、明治維新も敗戦の困窮時もひたすらにその道を全うして来られました。喜多流の九州内での催しが激減した現状を何とか再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きる私達の使命だと思います。

第四回

塩津能の會 九州公演

おはなし

塩津 圭介

舞囃子

井筒

塩津 哲生

大鼓 谷口 正壽
小鼓 飯田 清一

笛 森田 徳和

地謡

工藤 義彦 栗谷 充雄
佐々木多門 長島 茂
大島 輝久 金子敬一郎

狂言

清水

シテ(太郎冠者) 野村 万禄

アド(毛) 吉住 講

〔休憩二十分〕

能 葵上

シテツレ(巫女) 狩野 祐一
シテ(六条の御息所) 塩津 圭介

ワキ(横川の小型) 則久 英志

ワキツレ(大臣) 坂苗 融

間狂言(大神内の者) 野村 万禄

後見 粟谷 充雄
佐々木多門

地謡

渡辺 康喜 金子敬一郎
佐藤 陽 長島 茂
大島 輝久 塩津 哲生
谷 友矩 狩野 了一

大鼓 谷口 正壽 太鼓 吉谷 潔
小鼓 飯田 清一 笛 森田 徳和

(終了予定 午後四時過ぎ頃)



あらすじ

井筒 (約二十五分)

物寂しい秋の日、旅の僧が、今は廃寺である在原寺に立ち寄り、業平夫妻の名残の井筒から一叢のすすきがのびていました。題名の「井筒」とは井戸の周りがある柵のことで、舞台上には井戸とすすきの作り物が置かれ、秋の寂寥感を際立たせます。

その晩、僧が眠りにつくくと、夢の中に先の女が現れます。女は在りし日の業平を恋い慕い、形見である冠と直衣を身に着け静かに舞(序の舞)を舞います。そして、すすきをかき分け、想い出の井戸を見入る女の姿は作品を「層印象的なものにするのです。舞囃子とは、紋服、袴姿で、地謡、囃子方とともに、一曲の中の最も盛り上がる部分を取り出して上演されるものです。

あらすじ

葵上 (約六十分)

題名の「葵上」とは光源氏の正妻の名前です。葵上の身に、源氏の愛人である六条御息所の情念が取りついてしまい、重篤な状態となっています。舞台手前には一枚の小袖が置かれ、これが無抵抗に苦しんでいる葵上を表します。巫女に引かれるようにして正体を現した御息所は、本来は元皇太子妃であり気高く教養深い高貴な女性です。しかし近頃は、源氏の足も遠のき、やり場のない辛さが募っていると訴え消えてゆきます。次に家臣たちは、偉大な修験者、横川の小型を呼んで祈禱を始めると、御息所の嫉妬心が鬼女となって表われます。深い恨みの塊となった御息所は、祈禱をしている小型にも襲いかかり、激しい戦いの結果、御息所の執念は折り伏せられ、心安らかに成仏するのです。



塩津 哲生

1946 喜多流能楽分塩津清人の長男 熊本市出身。
1960「探川」の子で初舞台。
1969「怪談」にて初シテ。
1989 十五世喜多流宗家喜多実師のもと、内弟子修行のため上京。
1987「道成寺」を披き、独立。
1986 日本能楽協会会員、重要無形文化財総合指定。
1980 今上天皇即位の礼で「石橋」子獅子を勤める。
1986(平成六年)より流儀の若手育成を一手に担い、今日に至る。
2006 芸術選奨文部科学大臣賞受賞。
2007 観世寿夫記念能楽賞受賞。
2008 紫綬褒章受章。
塩津能の會主宰。
札幌・東京・福岡・熊本・大牟田・竹田各地に哲門会主宰。



塩津 圭介

1984 喜多流能楽師塩津哲生の長男として東京に生れる。
1987 喜多流例会能にて、初子方「隅田川」を勤める。
1988 子方の卒業試験とも言われる「鳥帽子折」を勤める。
1997 大分県竹田市塩津清人記念能楽台落成能にて初シテ「田村」を勤める。
2004 若者の、若者による、若者のための能「若者能」をたらあげ、以後毎年公演。
2008 東京学芸大学教育学部卒業。
2009 ΔPU立命館アジア太平洋大学非常勤講師に就任。
2011 喜多流青年能にて能楽師の登竜門「羅く世」を披く。
2015 道成寺を披き、独立。